

第 2 学年*組 国語科 学習指導案			
平成30年*月*日(*) 第*校時		教室 指導者** **	
育成する国語の能力	文章を読んで、構成、展開、要旨などを的確にとらえ、その論理性を評価すること。 「読むこと」(ア)		
単元名	文章の展開を整理し、要旨を捉えよう。		
単元目標	○文章の構成、展開、要旨などを的確に捉えようとしている。(関心・意欲・態度) ○文章を読み、構成、展開、要旨を的確に捉えることができる。(読む能力) ○語句の意味、用法を的確に理解している。(知識・理解) ([伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] のオ)		
単元の評価規準	関心・意欲・態度	能力	知識・理解
	文章の組み立てや展開などに注目し、内容や要旨を的確に捉えようとしている。	文章の組み立てや展開などに注目して、内容や要旨を的確に捉えている。	文章を読むことに必要な語句の意味、用法について理解している。
取り上げる言語活動	筆者の考えや要旨について自分の言葉でまとめる。		
題材(教材)	「働かないアリに意義がある」 長谷川英祐 (『高等学校 改訂版 現代文B』第一学習社) 「働かないアリに意義がある!アリが教える“生き方”コミックエッセイ」 漫画:いずもり・よう 原作:長谷川英祐(KADOKAWA/メディアファクトリー)		
単元(教材)について	(1)生徒観:本学級の生徒は、評論文の内容に関心を持って取り組む様子が見られる。読解に関しては文章全体をまとまりごとに分けることができる生徒は多いが、根拠を明確にして自分の考えを述べる力は不足している。段落ごとの役割を考え、構成や展開の仕方に注目して要旨を読み取る力を育てたい。 (2)教材観:本教材は生物学を具体的な例を比喻等の表現を用いて分かりやすく解説し、ムシとヒトの社会を対比させながら現代社会の問題点を論じている。読者の注意を引く表現を用いて書かれる箇所が多く見受けられ、筆者の主張や論の対比構造を読み取るのに最適な教材である。 (3)指導観:接続詞等の表現に注目して論の展開の仕方を考えながら、内容の読み取りを促していく。また、本文中に指示語が多く用いられているため、発問として取り上げながら指示内容を読解する力を養いたい。		
指導計画(学習計画)	主な学習活動		主な評価
	1	全文を通読してまとまりごとに分け、イラスト資料を用いながら、文章の内容を大まかに把握する。	・文章の構成を捉えようと努めている。(関心・意欲・態度) ・語句の意味を理解している。(知識・理解)
	2	第一・二段落を読解する。 ・指示語に注目して内容を読み取る。	・コロニーを構成する昆虫の特質を理解している。(読む能力)
	3	第三・四段落を読解する。(本時) ・文頭の表現に注目し、筆者が行った実験内容を整理して、結果をまとめる。 ・実験結果における考察を踏まえ、ムシの社会に関する筆者の主張を把握する。	・接続詞等に注目し、文章の展開を捉えようとしている。(関心・意欲・態度) ・「働かない働きアリ」がアリの社会に存在する理由について理解している。(読む能力)
	4	第五段落を読解する。 ・ムシとヒトの社会の在り方の対比を捉える。 ・筆者が重視する大学の役割を踏まえ自分の考えをまとめる。	・対比的に書かれた社会の在り方についておさえている。(読む能力) ・ヒトの社会の問題点や大学観など、自分に引き寄せて考えることができている。(関心・意欲・態度)
5	全体構造・内容を確認し、まとめをする。 ・段落、まとまりごとに見出しを付け、話し合いを通して構造図をつくる。 ・本単元の振り返りを行う。	・見出しをつけて内容を整理し、全体の展開・構造を把握している。(読む能力) ・本文中の表現に注目しながら、グループで議論している。(関心・意欲・態度)	

本 時 案 (第 時)		
本時の目標	○本文の表現に注目して簡潔に要旨を捉えようとしている (関心・意欲・態度) ○文章の展開に着目しながら、本文の表現に即して読み、「働かない働きアリ」の存在理由について理解している。(読む能力)	
学習活動	指導上の配慮事項など	評価・方法など
1 前時の学習の内容を確認する。	○第二段落の最後が第三段落の内容につながる点に注目するよう促す。 ○本時のねらいを伝え、学習の見通しを持たせる。	
本文の展開に注目しながら、「働かない働きアリ」の存在理由について理解する。		
2 第三・四段落を音読する。 ・ペアで一文ずつ交代して音読をする。	○二人組をつくり、一文ごとに交代して起立して音読し、読み終わったペアから座るよう指示する。	
3 筆者の行った実験の内容と結果についてまとめる。 (1) 教科書の本文の、実験の結果に当たる文に傍線を引く。 (2) 実験結果の原因について、本文を参考に漫画の穴埋めを行う。 (3) 要旨を捉えられているか、ペアで交換して読み合う。	○先にどのようなシステムを想定した実験であるか問いかけ、二つのシステムについて対比的に書かれていることを全体で確認する。 ○傍線を引いた箇所を発表させ、表などを用いながら実験内容と結果が分かりやすいように情報を整理して板書する。 ○結果に対する原因が書かれる段落を文頭の表現から探すよう指示する。 ○アリの社会の仕組みについて漫画の穴埋めを用いて内容を簡潔にまとめるよう促す。 ○ペアごとに穴埋めした教材を見せ合い、どのような言葉、内容が入るか確認する。	・文章の展開に注意して読み、実験結果からわかる考察の要旨をまとめようとしている。 (関心・意欲・態度) [プリントの記述、発言の観察]
4 「働かない働きアリ」に関する筆者の考えをまとめる。 (1) 筆者の主張に傍線を引き、ムシの社会が上手くいくために必要なことについて考える。 (2) 第三・四段落を通して、「働かないアリ」が存在する理由について自分の言葉でまとめる。	○筆者の主張が書かれている文に注目させる活動を通して、タイトルにもなる重要なポイントであることを意識させる。 ○形式段落ごとに大事な文や語句を探し、傍線を引くよう指示する。 ○「」や接続詞の表現など、筆者の強調したい箇所に注目して読むよう伝える。 ○「働かないアリ」の存在理由について筆者の主張を読み取り、まとめることで段落の要旨をつかめるようにする。 ○書き出せずに手が止まっている生徒には、ムシの社会の在り方を確認させ、「働かないアリ」が果たす「役割」を考えてみるよう助言する。 ○生徒を指名し、まとめた文を発表して全体で共有できるようにする。	・筆者が主張する「アリの社会」の在り方を読み取り、「働かないアリ」の存在する理由を理解している。 (読むこと) [記述の点検]
5 本時の学習を振り返る。	○本時の学習を振り返り、次時へのつながりを確認する。	